



# 名古屋の偉人伝

No.4

## 下里知足(しもさとちそく)の巻

ここがスゴイ！

井原西鶴や芭蕉など多くの俳人と親しく交流した、鳴海俳壇の中心人物。



千鳥塚(日本最古の芭蕉の句碑と伝承される)。裏面に知足の名前がある。

## こんな人生を送ってきました(経歴)

寛永 17(1640)年生～宝永元(1704)年 4月 13日没。

江戸時代前期の俳人、尾張鳴海宿の庄屋、鳴海下里家の二代目当主。若い時を桑名の伯父の家で過ごす。鉄の売買や酒造に取り組み、下里家(のち下郷家)繁栄の基礎を築いた。当時の俳人の動静をはじめ、政治、経済や日常の生活その他の克明な記録を残している。

20歳前後から俳諧に熱心に取り組み、吉田友次あわでしゅう撰『阿波手集』等に入集。延宝期(1673～81)には井原西鶴らに親しみ、知足あて西鶴書簡 4通が現存している。鳴海の俳人たちが詠んだ俳諧について、東西の一流俳人たちに批評をもらい、『尾陽鳴海俳諧喚続集』びょうなるみはいかいよびつぎしゅうを編集した。貞享2年4月、『野ざらし紀行』帰途の芭蕉を迎えて俳諧を詠む。以降芭蕉が上方を往復する度にその指導を得て、鳴海蕉門の中心人物となった。晩年の知足の志を継ぎ、息子の蝶羽ちよううが俳諧撰集『千鳥掛』ちどりがけを刊行。蕉門系を中心に各地の有力俳人を網羅した。

## もっとくわしく知りたいあなたに(参考文献)

- 『俳文学大辞典』(尾形侑ほか/編 角川書店 1995年)
- 『総合芭蕉事典』(尾形侑ほか/編 雄山閣出版 1982年)
- 『俳文学考説』(石田元季/著 至文堂 1938年)
- 『下里知足の文事の研究』第1部～第3部(森川昭/著 和泉書院 2013～2015年)